

都内中小企業の事業資金に関する調査 (平成23年5月調査)

《 概要 》

- 主な取引金融機関については、全体では「都市銀行」が55.6%（前回58.9%）と約半数を占め、次いで「信用金庫」が33.6%（前回30.6%）であった。
- 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をD I 値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では20.9と、前回20.8と、前々回17.5と比べて上昇しており、借入や返済に対する姿勢はわずかに緩和傾向にある。
- 主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が70.0%（前回64.4%）と最も高いが、前回に比べると「上昇」（5.5%→7.9%）が増え、「低下」（14.3%→6.4%）が減少した。
- 最近の借入金利は、「2%台」が44.9%（前回43.9%）と最も高い。次いで「2%未満」が33.8%（前回31.8%）と、前回と比べて増加した。
- 今後3か月間の資金需要をD I 値（「増加する」－「減少する」）でみると全体では23.6と、前回（18.4）と比べて増加した。
- 資金増加分の資金用途をみると、「運転」（79.3%）が最も多く、「運転・設備」が10.5%、「設備」は10.2%となった。

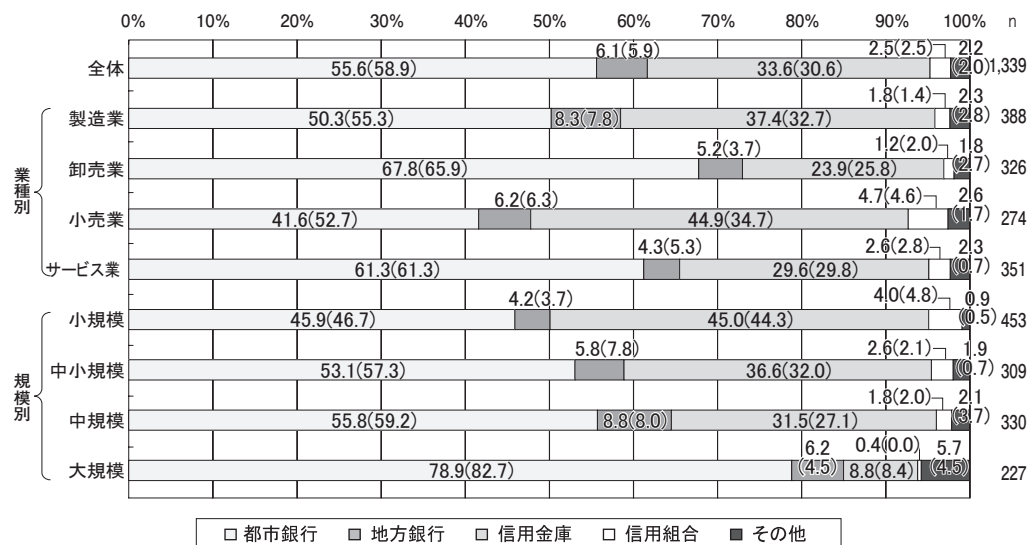
1 主な取引金融機関

主な取引金融機関については、全体では「都市銀行」が55.6%（前回58.9%）と約半数を占め、次いで「信用金庫」が33.6%（前回30.6%）であった（図表1）。

業種別にみると、卸売業とサービス業で「都市銀行」の割合が高く、どちらも6割を超えている。

規模別にみると、小規模では「都市銀行」（45.9%）と「信用金庫」（45.0%）がほぼ同じ割合であるが、大規模では約8割が「都市銀行」（78.9%）であり、規模が大きいほど「都市銀行」の割合が高くなり、「信用金庫」の割合が低くなる。

図表1 主な取引金融機関



※無回答を除き集計。規模不明を除く。カッコ内は前回値（平成22年11月）。

2 借入や返済に対する姿勢

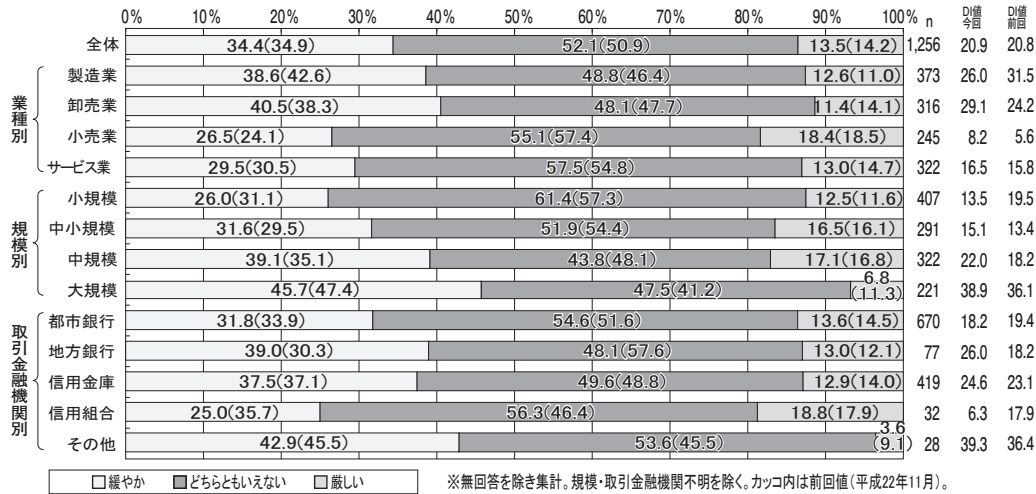
主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をD I 値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では20.9と、前回20.8と、前々回17.5と比べて上昇しており、借入や返済に対する姿勢はわずかに緩和傾向にある（図表2）。

業種別にみると、D I 値は卸売業が29.1と最も高く、改善幅（24.2→29.1）も大きい。小売業（5.6→8.2）及びサービス業（15.8→16.5）でも改善しているものの、唯一、製造業で（31.5→26.0）で悪化した。

規模別にみると、D I 値は大規模が38.9と、他と比べて高く、半数近くが「緩やか」と回答した。一方、小規模（19.5→13.5）ではD I 値が悪化し、規模が大きくなるほどD I 値が大きくなり、規模格差がやや広がった。

取引金融機関別にみると、都市銀行（19.4→18.2）のD I 値がやや悪化し、地方銀行（18.2→26.0）で大きく改善した。

図表2 取引金融機関の借入等に対する姿勢



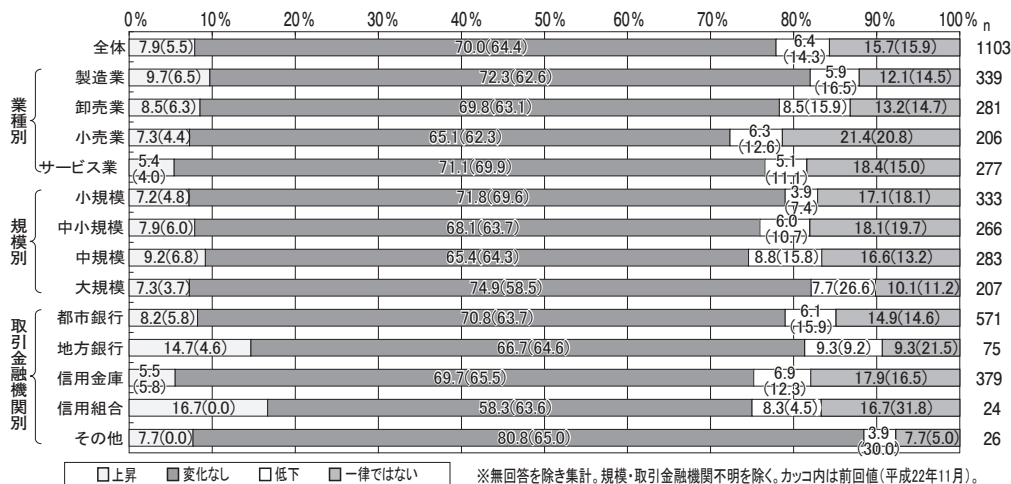
3 主な取引金融機関からの借入金利

(1) 金利傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が70.0%（前回64.4%）と最も高いが、前回に比べると「上昇」（5.5%→7.9%）が増え、「低下」（14.3%→6.4%）が減少した（図表3）。

規模別にみると、規模による大きな違いはみられないが、全ての規模で「上昇」が前回と比べて増加し、「低下」が減少した。

図表3 金利傾向



(2) 金利水準

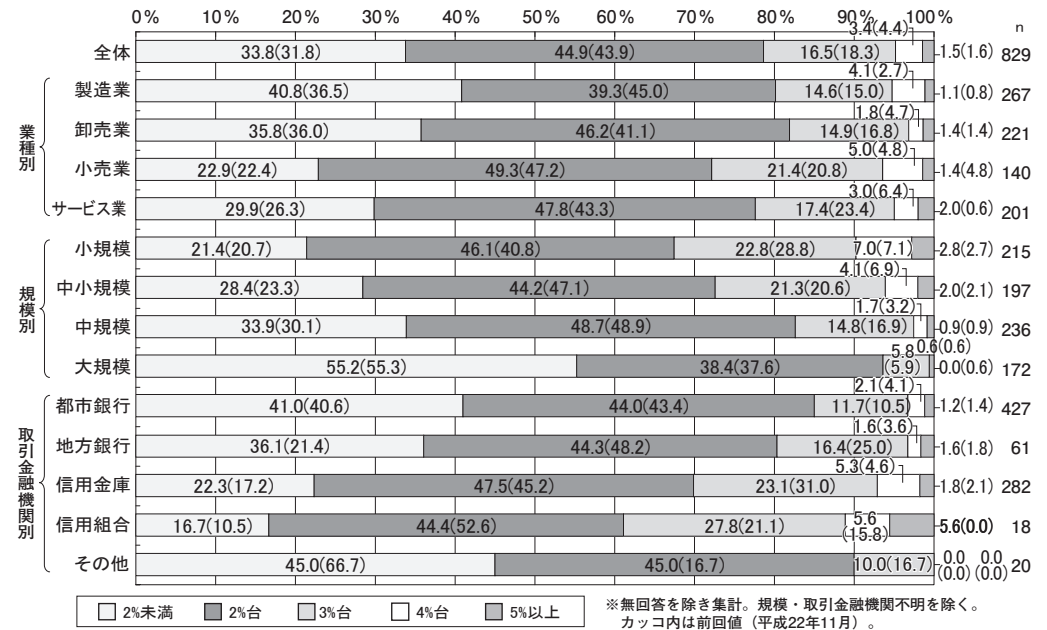
最近の借入金利は、「2%台」が44.9%（前回43.9%）と最も高い。次いで「2%未満」が33.8%（前回31.8%）と、前回と比べて増加した（図表4）。

業種別にみると、製造業は「2%未満」が比較的高く、前回と比べても増加した。小売業は、「2%未満」が比較的低く、「3%台」が比較的高く、他の業種に比べて金利負担が大きい。

規模別にみると、大規模は「2%未満」が半数を超えるのに対し、小規模は約2割にとどまる。逆に小規模は「3%台」が約2割に対し、大規模では1割に満たない。大規模を除いて「2%未満」が増加しており、金利水準の格差は存在するが、やや改善傾向にある。

取引金融機関別にみると、都市銀行は「2%未満」が41.0%と最も高い。地方銀行では、「2%未満」が36.1%と、前回（21.4%）と比べて大きく増加した。

図表4 金利水準

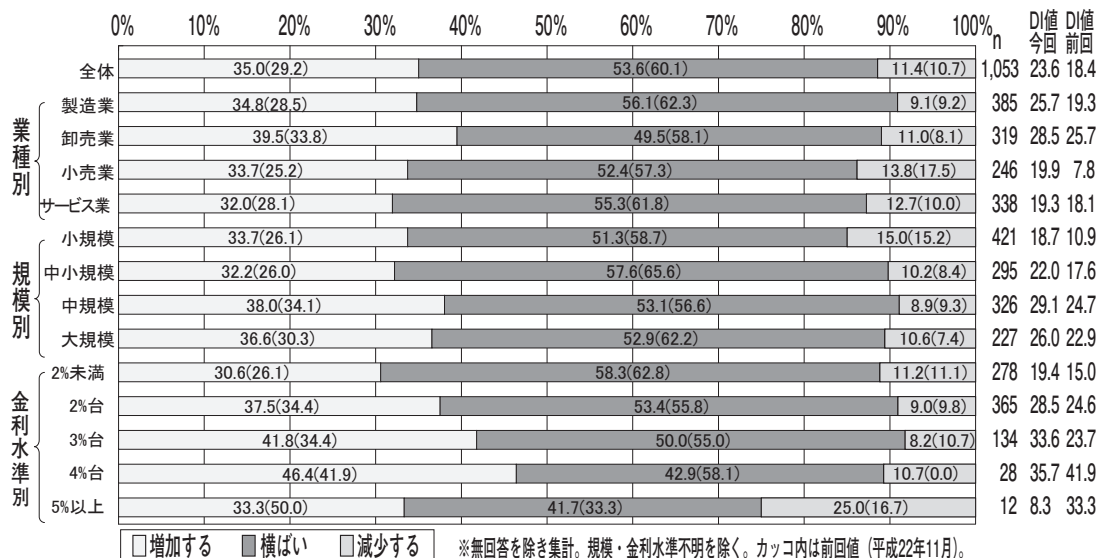


4 今後3か月間の資金需要

今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）でみると、全体では23.6と、前回（18.4）と比べて増加した。

業種別にみると、全業種でDI値が前回と比べて増加し、特に、小売業と製造業の増加幅が大きい。規模別にみても全規模で前回と比べてDI値が増加し、全体的に資金需要が増加している。

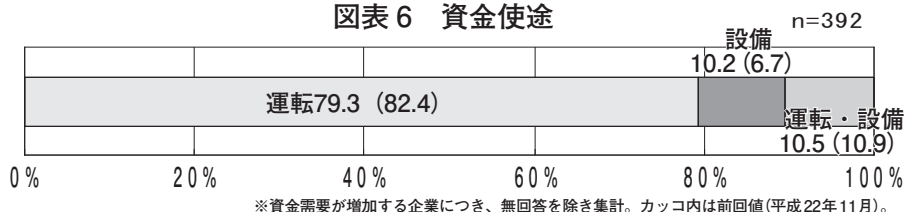
図表5 資金需要



(1) 資金使途

資金増加分の資金使途をみると、「運転」(79.3%)が最も多く、「運転・設備」が10.5%、「設備」は10.2%となった(図表6)。前回調査と比べると、「運転」がやや減少し、「設備」がやや増加した。

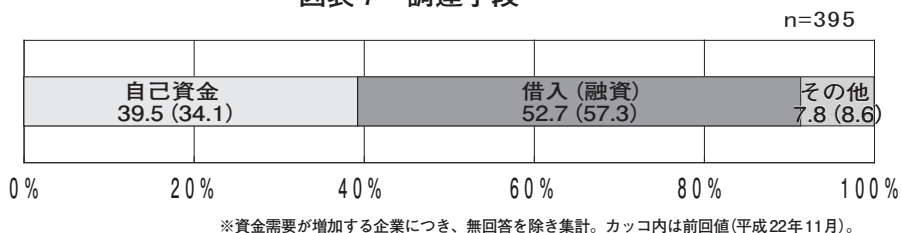
図表6 資金使途



(2) 調達手段

資金増加分の調達手段としては、「借入(融資)」が52.7%と過半数を占め、次いで「自己資金」が39.5%となった(図表7)。

図表7 調達手段



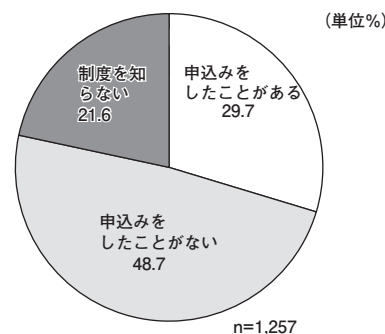
5 セーフティネット保証(5号)申込み

制度融資(セーフティネット保証)の申込状況をみると、「申込みをしたことがある」が29.7%であり、「制度を知らない」が21.6%であった(図表8)。

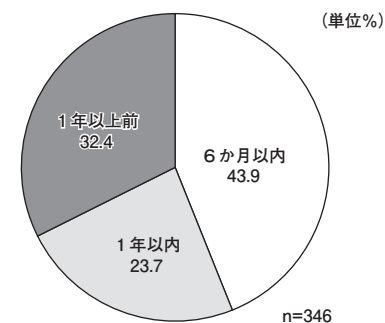
申込みを行った企業の申込みの時期は、「6か月以内」が43.9%、「1年以内」が23.7%と、直近1年以内に申込みを行った企業が約7割であった(図表9)。

申込みをした企業の結果は「満額」が67.0%と最も高く、次いで「減額」が22.9%であり、ほとんどの企業が融資を受けることができています(図表10)。

図表8 セーフティネット保証申込み

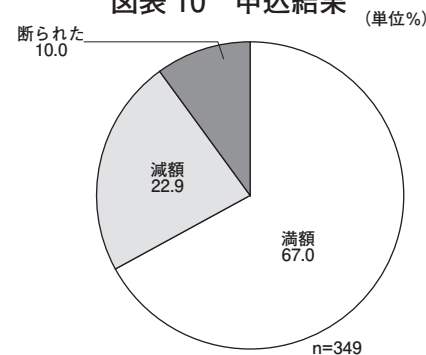


図表9 申込時期



注) セーフティネット保証申込み企業のみ集計、無回答を除く

図表10 申込結果



注) セーフティネット保証申込み企業のみ集計、無回答を除く